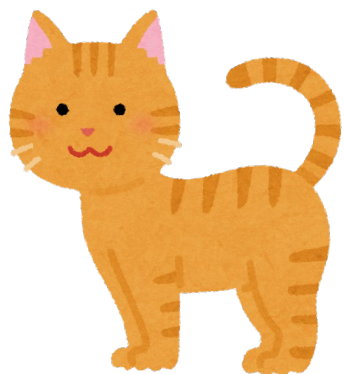


熱中症を予防してくれる

ロボット型ぬいぐるみ モモちゃん



BD高校3年

鮎原こずえ

1. 高齢者の熱中症

<自分の体験>

- ・一人暮らしの祖母の家に行ったとき、室温が30度を超えているのにエアコンがついていないことが数回あった。
- ・祖母は「暑くないよ」と答えたものの、体調を崩してしまった。
- ・医者の説明から、「高齢者は熱がこもりやすいのに、暑さを感じにくい」ということがわかった。



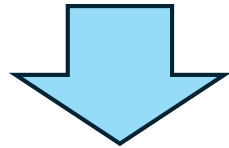
<高齢者の熱中症に関するデータ>

- ・令和5年夏の熱中症による救急搬送患者は約91000人。
そのうち半数以上が65歳以上の高齢者。
- ・高齢者の場合、半数以上が自宅で発生。重篤に至る危険性が高い。

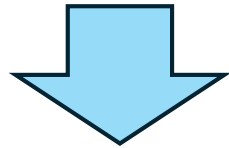
社会課題！

2. 高齢者の熱中症対策のポイント

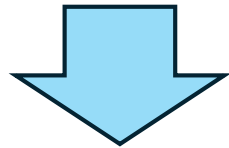
私が着目したのは「暑さを感じにくい」こと。



身近な誰かが教えてあげる。でも24時間のサポートが必要。



たんなる機械的な声のアドバイス（例：温度計がお知らせ）では、耳が遠い高齢者はエアコンのスイッチを押さないかもしれない。



目にも、そして心にも訴えて、エアコンスイッチを入れさせるしかけが必要！

3. 提供する商品

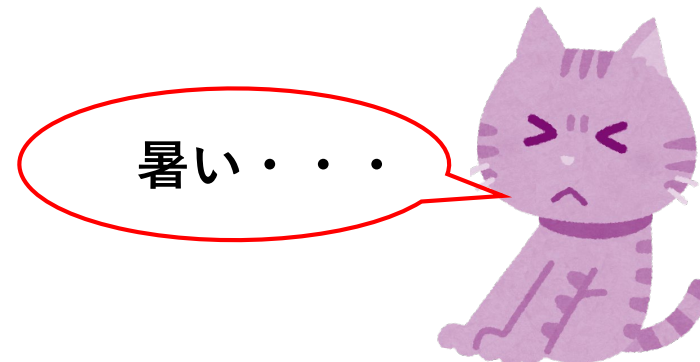
<商品名> ロボット型ぬいぐるみ モモちゃん

<商品の内容> ・簡単な会話ができる
・猫のしぐさをまねできる



<最大の特徴>

- ・気温が一定温度を超えると色が変わり、不機嫌になる。
- ・「モモは暑いでしゅ。エアコンをつけてくださいニャー」と懇願する。



4. 商品の顧客

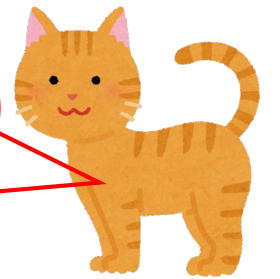
<商品を使う顧客>

- ・高齢者。特に一人暮らしの人。
- ・会話のない寂しい生活を送りがち。ロボット型ぬいぐるみは癒しになる。
- ・たんに熱中症を予防できるだけでなく、暑さ寒さなどのお世話をすることによって、自分の役割（有能感）を得られる。認知防止にもつながる。

<商品を買う顧客>

- ・主に、離れて暮らす家族。
- ・日頃の心配を小さくすることができる。

気温をお知らせする商品はほかにもあるけど、私はお世話してもらう事がポイントだニャー。



5. 開発の進め方

- ・この商品は、高齢者に「お世話したい」と思ってもらわなければならない。
そのために、以下の2段階で進める。

<第1段階> 試作品をつくっては、高齢者施設で試していただく。

高齢者のニーズを徹底的に確認。

猫の顔、色、大きさ、動作、声、など。

標準商品を作成。



<第2段階> 個々のニーズに応じて、オーダー商品を作成。

(例) 昔、飼っていた猫に似せる。



熱中症に関するデータの引用

- 総務省消防庁

<https://www.fdma.go.jp/disaster/heatstroke/post3.html>

- 東京消防庁

<https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/lfe/topics/season/toukei.html#:~:text=%E7%86%B1%E4%B8%AD%E7%97%87%E3%81%AE%E7%99%BA%E7%94%9F%E5%A0%B4%E6%89%80,%E3%81%A6%E3%81%84%E3%81%BE%E3%81%99%EF%BC%88%E5%9B%B3%EF%BC%99%EF%BC%89%E3%80%82>